

2018年3月16日~17日 黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳

参加メンバー：W、S(上小)

今年シーズン、チャンレンジしてみたいと考えていた黒戸尾根を友人と登ってきました。

### [1日目]

雨は免れない予報であったが、翌日の気圧配置から間違いなく晴れることが分かっていたため、決行。午後から天候が回復する予報であったため、1時間ほど出発時間を遅くし、出発した。標高が低い間は雨の気配もなく、暖かな中進む。雨が降ると言う事で、上下カッパの恰好が暑い。途中で脱ぐが、標高を上げるに連れ霧雨のような雨が降り始める。

標高1400m付近から雪と氷が出始める。1700m付近で足を滑らせ転倒。顔面もろともドロの中にダイブしてしまい、全身ドロだらけ。仕方なく、アイゼンを装着。

刃渡りはほとんど雪が溶けており、特に問題なし。五合目でヘルメットとピッケルを装備する。ここから積雪も増え、本日の核心である梯子郡を登る。かなり整備されており、頻繁に新しいロープが設置されてあった。また、梯子自体も新しい。とはいえ、梯子が凍りつきステップが雪と氷で覆われているため、慎重にならざるを得ない。全体的に激しく凍っているため、ピッケルが欲しくなる。とてもテクニカルなルートに変貌していた。

ゆっくりと高度を上げ、本日の宿である七丈小屋へ到着。この日の宿泊者は私達のみ。非常に感じの良いスタッフ2名が番をされており、小屋の中も半袖で過ごせるくらい温かであった。夕食はSちゃん特製、シチューオンライス!!美味しかった!!



①梯子の連続



②まだまだ続く



③急峻なのに凍結が激しい

### [2日目]

登攀具を装備し、日の出と共に小屋を出発。昨日の雨は、上部では雪となっていたため、念のためにワカンも携帯した。ここ2~3日ほど誰も山頂へは行っていないということで、期待が高まる。

小屋から森林限界は近い。稜線上は強めの風が吹いていたが、問題はない。全体的に、薄い氷の下にパウダースノーが眠っている感じになり、アイゼンが効き難い。雪は全く締まっていなかった。ワカンは必要なかったが、軽いラッセルが続く。もちろんノートレース。

八合目から本日の核心が始まる。2人で都度相談しながら、安全に登れる道を探す。立派な雪庇が左手に出来ているため、寄らないように気を付ける。鎖部分はほとんど雪に埋もれていた。2本の剣が立つ下、大岩

は右から巻き、巻いた後は左(夏道上)を登る。とにかく雪が柔らかく、傾斜もあるため、2人とも嫌な感じがした。ここは、下山時には懸垂しようと思った。アツと言う間に、誰もいない甲斐駒山頂へ到着。まさに独り占めならぬ、二人占めだった。

下山時も行きと同様、2本の剣が立つ下、大岩付近が核心となる。行きに左を登った箇所は、しっかりとした支点(木)を使い、懸垂 25m×2回を行った。行きに右に巻いた大岩は、ロープを出さずに済んだ。雪がたっぷりあるため、小屋までの下山は早かった。

AM10:00に小屋に到着し、予定より早く下山出来たこと、まだまだ体力が残っていることから、この日の内に下山することに決める。小屋から下は、前日の雨により、より氷を纏った梯子を下る。しかも、アイゼンが効き難い。登りより状態が悪いため、慎重に下った。駐車場に着くまで10名ほどの登山者とスレ違ったが、装備は様々。何だか私達が重装備だと感じてしまうくらい、とても軽装な人もいた。



④甲斐駒ヶ岳をのぞむ



⑤2本の剣



⑥誰もいない甲斐駒ヶ岳山頂



⑦核心部は懸垂で

翌18日、八合目上の核心部で下山中に滑落・死亡事故が発生。前日スレ違った何方かと思うと、痛ましい。ご冥福をお祈りいたします。

[コースタイム]

1日目：

尾白川溪谷駐車場(7:40発)―刃利天狗(12:45)―五合目(13:35)―七丈小屋(14:55着、泊)

2日目：

七丈小屋(5:50発)―八合目(6:50)―甲斐駒ヶ岳山頂(8:20)―八合目(9:30)―七丈小屋(10:00着、大休止)―尾白川溪谷駐車場(15:35着)